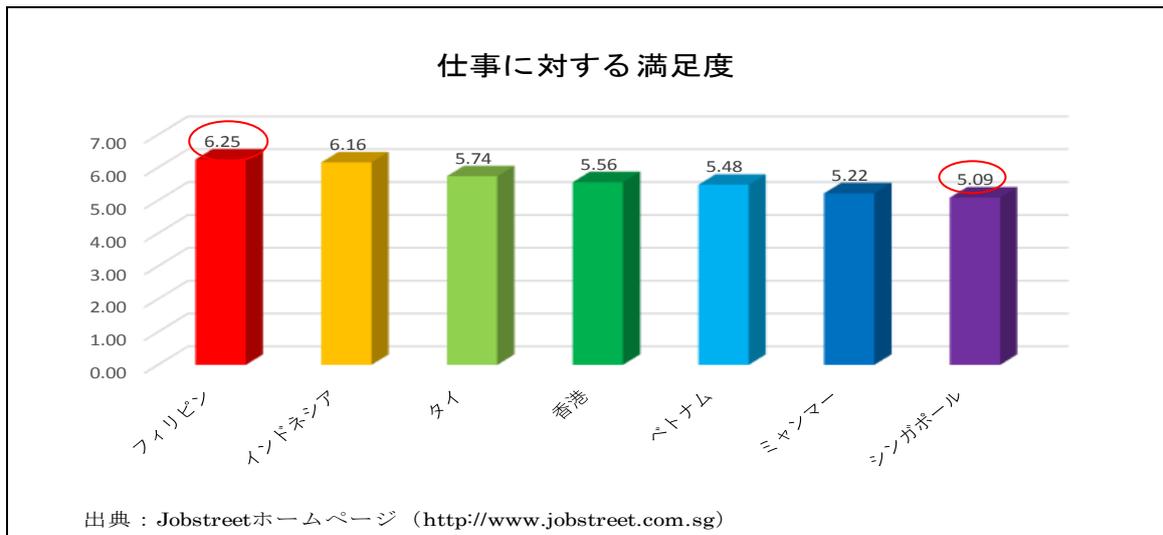


<経済>

シンガポール、仕事の幸福度が最下位

シンガポールは、東南アジアにおける地理的優位性や各種インフラ整備が整っていることから、様々な企業の進出を後押ししています。そのため、シンガポールは外国企業が進出しやすい国ではありますが、シンガポールの高い教育水準から労働市場に優秀な人材も多く、賃金水準も他のアジア諸国と比較して高いことから、多くの企業が人材確保に苦勞しています。



そんな中、実際にシンガポールで働いている人が感じている自身の仕事の満足度について、アジア7カ国・地域の中で「仕事に対する満足度が最も低い」という調査結果が出ました。これは、シンガポールのオンライン求人サイト「ジョブストリート・ドット・コム」が7カ国・地域の6万7,764人を対象に「仕事に対する満足度」を調査したもので、通勤の利便性、職場内の人間関係、企業評価、給与・福利厚生といった様々な評価項目を基に、回答者が仕事の幸福度を10点満点で評価したものです。各国の結果は図表のとおりで、シンガポールの指数は5.09ポイントと、1位のフィリピンを1.16ポイント下回りました。

さらに、「自分が仕事にどれだけストレスを感じているか」という質問に対しては、シンガポールは香港を0.32ポイント下回る4.93ポイントでこちらも最下位となり、普段の仕事にストレスを感じ、自身の仕事に満足していないという悲しい結果となりました。

一方で、「自身の仕事の満足度を上げるために有効なこと」についての質問でシンガポールの回答者は、それぞれ転職(30%)、賃金アップ(19%)、自身に対する会社の評価(9%)と回答しています。

シンガポールでは「転職=キャリアアップ=給料アップ」という考えがあるため、企業に勤めている人たちは、自身のキャリアアップの手段として頻繁に転職を行う傾向にあります。この結果からも、今後も引き続きシンガポールにおける賃金の上昇や転職文化は続くことが予想され、従業員の職場への定着化が困難になることが危惧されます。

＜社会＞

多民族国家としての民族・宗教尊重

多民族国家として知られるシンガポールの人口は、中華系 74%、マレー系 13%、インド系 9% で構成されています。1965 年にマレーシアから独立後、国民の多くが移民の子孫で構成されていたこの国では、民族間での衝突や対立を防ぐため、お互いの信仰や文化を尊重し、民族同士の融和・共存を図る政策が取られています。

その一つが国民の祝日です。シンガポールでは、祝日が 11 日設けられており（2016 年）、その多くが宗教と結びついています。中華系のお正月である「チャイニーズニューイヤー（旧正月）」は日本人にも馴染みのある祝日ですが、9 月にはイスラム教の宗教的な祝日の「ハリ・ラヤ・ハジ（メッカ巡礼祭）」が、10 月にはヒンドゥー教の祭日である「ディパバリ（光の祭典）」が設定されており、それぞれチャイナタウン、アラブ・ストリート、リトル・インディアといった、各民族の中心となる地域を軸として、様々な行事が行われます。

また、シンガポールでは、国民の 8 割以上が国が建設した公営住宅に入居していますが、公営住宅の入居者の比率が、一定の地域ごとに国民全体の民族比率と同程度になるように配慮されています。これは一つの地域に一定の民族・宗教の住民が集中しないための工夫であり、これにより、同一民族や同じ宗教を持つ人間が排他的なコミュニティを形成するのではなく、異なるバックグラウンドを持つ住民が相互的に関わりあう社会を目指しています。

ヒンドゥー教の祝日「ディパバリ」

インド歴の 7 番目の月の初日（10 月末から 11 月初め）は、ヒンドゥー教徒にとって新年といえる祝日です。この日は、ヒンドゥー教の女神ラクシュミーをお祝いする日であり、街はろうそくやイルミネーションでカラフルに飾りつけられ、住宅や商業施設には、神を家に招き入れるためのランゴリーと呼ばれる花や動物、自然を表現した絵が置かれます。花火や爆竹もお祝い気分を盛り上げてくれます。

多くのインド系の方が買い物などで集まるリトル・インディアでは、ディパバリの時期には、目抜き通りのセラングーン通りに光のアーチができ、ヒンドゥー教徒だけでなく、多くの人を楽しませてくれます。

四季のないシンガポールですが、ディパバリが来るとそろそろ年末かなと感じるこの頃です。



ディパバリ時期のセラングーン通り

シンガポールの見本市情報

Marina Bay Sands

名称	期間
Singapore Jewelry & Gem Fair 2016	11 月 04 日～11 月 07 日
高級ジュエリー完成品、貴石、パール、シルバー、シルバージュエリー、時計、その他	
The 6 th Asian Subsea Conference and Exhibition	11 月 29 日～12 月 02 日
海底の技術、サービスの多様なコレクション	
The 21 st International Oil & Gas Industry Exhibition	11 月 29 日～12 月 02 日
空輸・ヘリデッキ・物流、化学・流体・潤滑油、コンピューターハードウェア、油流出対応機器	
Asia TV Forum & Market 2016	12 月 07 日～12 月 09 日
TV 制作、映画制作、TV コンテンツ代理店、インターネット放送	

Suntec

名称	期間
JEC ASIA	11 月 15 日～11 月 17 日
金属以外の複合材	
Anime Festival Asia 2016	11 月 25 日～11 月 27 日
日本のポップカルチャー、アニメーション作品を中心としたマーチャンダイジング	

* 上記の見本市は予定が変更になる場合もありますのでご注意ください。

★ トピックスレポート（シンガポール人スタッフ便り）★

オンラインギャンブルを巡って

突然ですが、皆さんはシンガポールと言えば何を思い浮かべるでしょうか。常夏の国、マレーイオン、マリーナベイサンズ。また、カジノを思い浮かべる人もいらっしゃるのではないのでしょうか。

シンガポール有数の観光施設であるマリーナベイサンズ内とセントーサ島内にあるカジノでは、観光客が無料で入場できギャンブルができるとあって、ガイドブックに載るほど有名ですが、今回は同じギャンブルでも、オンラインギャンブルについてお話ししたいと思います。

シンガポールでは、ギャンブル依存等の被害を防止する目的で、2014年に施行された遠隔賭博法という法律によりオンラインギャンブルに対して規制を強化し、企業によるオンラインギャンブルサービスの提供を禁止していました。しかし、2016年9月に政府が宝くじ運営会社であるSingapore Pools社とSingapore Turf Club社の2社に対して、オンラインギャンブルサービスの提供を認め、話題になっています。

新聞報道によれば、ギャンブルによる被害が防止できなくなるとの理由から、政府に対して両社に対する事業許可の可否を再度検討してほしいといった声や、政府は今後両社の事業を監視するべきといった声など、ギャンブルに対してやや厳しい意見が世論から寄せられています。しかし一方で、新たな娯楽が増えるとオンラインギャンブルを楽しみにしている人たちからは、今回の政府の対応を容認する声も上がっており、賛否両論が盛り上がっている中、政府が今後どのような対応をするか注目されています。